



京 陽 の 窓



150周年をめざして、Think Globally Act Locally

4月臨時号③

令和2年4月27日

5月7日以降の教育活動について

校長 青木 幸代

今年も（！）京陽小学校に元気いっぱいの“こいのぼり”が泳ぎました。青空を悠々と泳ぐ姿が見事です。こんな状況の中で・・・いえ、こんな状況だからこそ、けいようサポーターズや図書館ボランティアの皆様が、子どもたちのためにと力を尽くしてくださいました。



困難に向き合って耐えねばならない日が続く中で、忘れていた季節の移ろいに気づかせていただきました。

青空のもと大きく深呼吸をして、こいのぼりに力をもらいながら、前を向いて進みたいと思います。



* * * *

別紙、通知文にもありますように

- 5月7日（木）、8日（金）も、学校の臨時休業を継続します。
- 11日（月）以降については、改めて区の判断によって対応が決まります。

今後の学校再開にあたっては、3密回避のため、『段階的再開』になることが予想されます。

『段階的再開』とは、例えば以下のようなイメージです。（現段階ではあくまで<例>です。）

第1段階：週に1回、1クラスの1/3ずつが1～2時間程度、登校する。（分散登校）

第2段階：週に3回、1クラスの1/2ずつが3～4時間程度、登校する。（分散登校）

いずれにしても、『完全再開』までには、かなりの時間がかかることが予想されます。

以上のことから、今後5月以降は、当該学年の学習内容を児童が在宅で進められるようにし、教育活動を進めてまいります。4月の復習中心の学習から、“新たな学習内容を自宅で進める”ことにシフトすることになります。

概略は次ページの通りです。（詳細は、5月1日発行の各学年だよりに掲載します。）

学年の発達段階によって、学習の進め方に違いがあります。「児童が自分で進める」ことを基本としつつも、保護者の皆様のご協力をいただくことも多々ございます。また、いずれも初めての試みですので、不具合も生じるかもしれません。その都度、改善を図りながら実施していきたいと思っております。ご理解とご協力のほど、よろしく願いいたします。

5月からの家庭学習の進め方

①示された「時間割」に沿って行う。

- ・一週間ごとの「時間割」に記載された指示や、「学年だより」あるいは「学習の進め方」（←学年で必要に応じて配付）を読みながら、進める。
- ・指示に従って、教科書やノート、配られたワークシートなどを使って進める。
- ・「時間割」は一週間ごとに示します。
- ・**1回目の「時間割」は5月7日（木）～13日（水）分です。5月1日までにホームページに掲載します。**
- ・**ホームページ上での教材の閲覧やプリントアウトには、パスワードが必要です。別途、メールにてお知らせします。**

②自分で進める。

- ・学年の発達段階によっては、丸付け、動画視聴に際してのインターネット環境の用意、時には理解の状況の確認やご指導を、お願いします。
- ・高学年では「自学」の力を付ける機会にもなります。できる限り「自分で」進めさせてください。

③学習の成果を学校に提出する

- ・一週間が終わったら、指示に応じて、ワークシートなどを学校に提出してください。登校日が設定できる状況であれば、登校時に児童が持参。それができない状況が続く場合は、保護者の方が学校までお届けください。（郵送や、学校のポストに入れていただいてもよいです。）

④取り組みに対するフィードバックを得る。

- ・家庭学習についての励ましの言葉等の評価を、担任や学年から届けます。成果物にコメントして返却したり、メールやお便りで知らせたりなど、状況に応じて行っていきます。

学年だよりやワークシートなどは、全てホームページ上にも掲載します。

◆ダウンロード及びプリントアウトして取り組む。

◆保護者の方が学校に取りにいらっしゃる。のいずれかをお願いします。

1回目の教材を取りにいらっしゃる場合は・・・

5月1日（金）14：00～19：00

2日（土）8：30～19：00

をお願いします。

★家庭における学習を、学校での学習と同様に見なします。

繰り返しになりますが、これらは当該学年の学習内容を児童が在宅で進める取り組みです。ですので、指示のあったことについて各ご家庭で子どもたちに、「必ず学習させて」ください。

なお、学校再開後、学校では、家庭で進めた学習内容について、テストなども活用しながら理解や定着の状況を把握し、十分でない部分についてはきちんと補充を行います。

* * * * *

本号は、『家庭学習の進め方』についての内容ばかりとなってしまいましたが、学校のもう一つの大きな使命として、『人と関わりながら学ぶこと』があることは言うまでもありません。今はあくまで、STAY HOME に努めながらも、この家庭学習の期間を通じて、まずは子どもたちと担任との双方向性をできるだけ生み出していきたいと考えております。